

令和 7 年 2 月 20 日

足立区立加平小学校  
学校長 倉島 敬和 様

足立区立加平小学校 開かれた学校づくり協議会  
会長 丸山 悦男

## 令和 6 年度 学校関係者評価書

### 1. 学校経営計画・自己評価書全般について

「1 学校教育目標」「2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像」「3 学校の現状及び前年度の成果と課題」「4 重点的な取組事項」「5 令和 6 年度の重点目標」「6 まとめ」と、解り易く纏めて頂いた自己評価書です。

目標達成に向けての、達成基準、具体的な方策、実施結果、コメント・課題、達成度と、しっかり分析されています。また、各取組事項の課題を明確にした上で、きめ細やかに実行されている様子がよくわかります。

限られた時間の中で、大変なご苦勞があったと思いますが、学校長のもと教職員のご尽力により、目標(取組)の達成度でも、十分な成果を上げていますので高く評価したいと思います。今年度も「笑顔輝く加平小学校」を目指し、教育目標である「思いやりのある子」「よく考える子」「たくましい子」の実現ができたのではないのでしょうか。

保護者や地域の方々からの学校への期待は大きいです。加平の歴史と伝統を受け継ぎ、学校・保護者・地域の連携を強化しながら、「笑顔輝く加平小学校(みんなが仲のよい学級・学年・学校)」の実現を推進していただける事を期待しております。

来年度は、開校 60 周年を迎えます。かへい第 9 号に書かれているように、周年を祝う機運を高め、「歴史と伝統」を継承発展していこうとする「こころざし」、社会への貢献する意欲、感謝の気持ち、愛校心を育成していただきたいです。開かれた学校づくり協議会は、創立 60 周年記念事業に向けての実行委員会に協力させていただきます。

### 2. 令和 6 年度重点目標の「実施結果」や「達成度」について

#### 重点的な取組事項－1 人権と生命を尊重する教育

今年度の成果目標「自己肯定感・思いやりの心を育てる」達成基準である児童アンケートで、「楽しく学校生活を送っている」94.1%以上を 91.9%達成と昨年度より 2.2%減となりましたが、安心できる結果だと思います。602 名中(令和 6 年 4 月現在)約 48 名が何らかの理由により楽しい学校生活を送れていないのが心配ですが、児童それぞれに要因があり慎重に対応すべき事案になると思います。引き続き、新たな方法や取組を模索しながら、心の教育の充実を図ってください。

各取組項目の具体的な方策により実施結果が、すべて達成されていますのでとても評価できます。「読書活動の充実」楽しんで読書ができたか 90.3%達成、「なかよし標語」友達に優しくできた 95.5%、「あいさつ運動」家族や大人にあいさつをした 94.8%達成、「道徳教育の充実」友達と仲良く助け合うことができた、友達やクラス、学校のために行動ができた 94.1%達成、「児童集会の充実」91.6%達成と良い結果となっております。挨拶活動を通年で取り組んだことにより、適切な声で挨拶する子供が増え、立ち止まって挨拶する子や廊下ですれ違う時に会釈する子も増えてきており、子供たちの豊かな心を醸成されていると思います。挨拶は「おはようございます・こんにちは・さようなら」だけではなく、挨拶以外の「ありがとうございます

す・ごちそうさまでした」など感謝の言葉や「ごめんなさい・すみません」など沢山ある事を意味も含めて児童に理解して欲しいです。声に出して言う事は健全な心を育てると思います。

めざす児童像の「自分に自信をもち、友達を大切にできる子」「めあてをもち、意欲的に学習する子」「あきらめない強い心とやり遂げる体力のある子」とは、自己肯定感をしっかりもっている子だと思います。

小学校に入学する頃から、自分の能力や性格を、他者との比較を通して評価するようになります。人と比べて「走るのが遅い」「字が上手にかけない」など、成長とともに自分自身と友達とを比較するようになっていきます。その結果、自信をなくしたり、劣等感を抱いたりするようになり、これが自己肯定感の低下につながる可能性があると考えられるそうです。自己肯定感が低い子どもは、自分に自信が持てないため、トラブルや困難に出会っても立ち向かうエネルギーが湧いてこないことがあります。

自己肯定感を育ませるために、自分の得意なこと・好きなことに取り組める場を設定するなど、引き続きお願いいたします。好きなことをみつけるためや個性を伸ばすためにも、「興味や関心を引き出す」取組も必要だと考えます。コンプレックスの解消に繋がりやる気を出させると思います。

規律ある行動ができるよう、生活指導の基本方針に掲げる「み・そ・あ・じ」の取組を中心にして、引続き生活指導をお願いいたします。

## 重点的な取組事項－２ 基礎的・基本的な学力の定着（学力向上アクションプラン）

### A 今年度の成果目標

「基礎的基本的な学力の定着」では、達成基準を区学力調査目標値通過率 80%以上とし、結果通過率では、国語 82.8%、算数 83.3%で達成されました。個に応じた指導を充実・推進した結果です。授業力の向上が図られているのだと思います。

まとめにありました、平均正答率が30%未満の割合も高い傾向にあり、差が広がっている傾向がみられた事が気になるところです。目標値に達していない児童に対してのケア・対策を講じているとは思いますが、一人一人の状況を把握して早い段階での改善が急務と感じます。子供の学力等に影響する要因として「家庭・地域の環境」「児童の生活習慣や関心・意欲・態度」「学校の教育指導」等が考えられます。協議会でも対応策等の意見交換が必要な問題だと認識しています。

### B 「目標実現に向けた取組み」アクションプラン

学力向上を図る「アクションプラン」は、各プランに必要な措置を講じ(改善を図り)概ね達成されました。具体的な取り組み内容（誰が、何を、どのように）を検討・実施していただいた結果です。教職員の並々ならぬ努力があったからだと思います。ありがとうございます。一方では、アクションプランの中で、「朝学習(15分)」「放課後補習教室(低40分・高30分)」は、通常の授業以外での実施となります。指導されている先生方への負担が懸念されます。

達成度が△項目「家庭学習の手引きの活用」「家庭学習の充実」については、各家庭での理解・協力が必要です。宿題提出率93%以上に対して、9月提出率88.1%と目標を下回り残念な結果です。また、新規項目「家庭学習の充実」の取組の一つとして、家庭にタブレットを毎日持ち帰りA Iドリルに取り組ませるについては、協議会委員の多くは、A Iドリルとは何ですかとなると思います。ご教示の程よろしくお願いいたします。

「授業力向上」については、小中連携の取組、授業指導、タブレットの活用推進等の実施により、授業力・指導力の向上に努めていられる事がよくわかりました。

小学校は、大人になるための基礎的な学力、体力、そして人格が形成される重要な場です。教員は、国語、社会、算数、理科、音楽、図画工作、家庭、体育、道徳、外国語（英語）、特別活動等の授業のため、時間

ごとに具体的な教育・指導計画を作成し、教材や教具の準備をします。学習指導のほかに、児童の出欠席の調査、健康状態の確認、教育環境の整備といった学級経営や、日常生活の指導、学校行事の指導もあります。また、いじめや不登校の未然防止や問題の解決に取り組むことも求められています。このように児童の学習や学校生活全般にかかわるたくさんの仕事があります。ただただ頭が下がるばかりです。

東京都教育委員会から「学校における働き方改革」について令和5年9月5日に公開されています。子供たちに効果的な教育活動を行うためには、教員が健康で生き生きと働くことが大切です。子供たちと向き合うための時間や、授業の質を高めるための授業準備の時間を十分に確保できるよう、学校・教員の役割や働き方を見直し、教員の長時間勤務を早急に改善がすることが必要です。保護者・地域の皆様におかれましても、ご理解をお願いします。児童ひとり一人が豊かな心を持ち、健やかに成長するように、心を配りながら仕事にあたってもらうためにも、協議会を通して、保護者・地域に共有したいと思います。

### 重点的な取組事項－3 体力向上に向けた取組の推進

今年度の成果目標である「健康な体づくり」の達成基準は、東京都体力・運動能力調査結果 握力・柔軟性・瞬発力・投力の4種目を都の平均に近づけるとしていました。実施結果(上回った学年/6学年(男女別))は、握力(0/12)・柔軟性(0/12)・瞬発力(4/12)・投力(0/12)で都平均を瞬発力以外は下回る結果です。

文部科学省が行っている「体力・運動能力調査」によると、現在の子供の体力・運動能力の結果をその親の世代である30年前と比較すると、ほとんどの項目において、子供の世代が親の世代を下回り、身長・体重など子供の体格は、逆に親の世代を上回っているとの事です。体格が向上しているにもかかわらず、体力・運動能力の低下が深刻な状況であることを示しているといえます。

学校全体としては、まずは都平均に近づけるための方策を、来年度においても運動時間の確保と運動の日常化を目指し、取組みの改善・向上を図っていただける事に期待しています。

一方では、学校での体育授業等の限られた時間の中で体力・運動能力の向上には限度があります。協議会委員の中でも色々な意見がありますので、課題として検討したいと思います。

体力・運動については、個人差が出る分野です。体の成長速度もバラバラなので、同学年の中でも体格差があります。9歳～12歳頃は、「ゴールデンエイジ」と呼ばれています。運動神経が良くなる・スポーツが上手くなる為の大切な時期としてよく使われています。スポーツだけでなく楽器等繊細な指使いを必要とされるものも当てはまり、何か上達するのにとても重要な時期です。自分が思ったように体を動かせるようになり、ちょっとしたきっかけで、今まで出来なかった事が出来る様になります。

子供たちにとって楽しんで運動ができる環境づくりが必要です。地域と行政が協力して進める事案だと認識しております。

取組項目「健康な体づくり」実施結果の「休み時間には、外で元気に遊ぶことができた」の肯定的回答76.1%は良い結果です。今後も外遊びを推奨し、児童の運動意欲を高める取り組みをお願いいたします。

「食育の推進」栄養教諭による、ランチルーム給食時の発達段階に応じた食育指導ありがとうございます。令和6年12月7日開催の開かれた学校づくり協議会「試食会」で給食を試食させていただき、美味しくいただきました。当日配布された資料は、食物アレルギー対応、給食の残菜量、特色のある給食、学校における食育等、わかりやすく纏めていただき日々の大変さがわかりました。

「食育の推進」「保健指導」来年度も充実したものにしていきたい。

### 重点的な取組事項－4 地域の特色にあった魅力ある教育活動の展開及び持続可能な学校運営の実現

「魅力ある教育活動の展開」各学年が地域にある教育資源(人・施設等)を活用した授業を実施しています。

「伝統的な言語文化に関する指導」「六町駅前安全ステーション(通称 ろくまる)」「タブレット端末を活用したICT教育の推進」「地域との連携」「加平小学校 2020 レガシー」各取組みは、協議会委員の多くから良い評価をされています。協議会としても地域と連携できる取組みを考えていきたいと思えます。引き続き、魅力ある活動をお願いいたします。

「タブレット端末を活用したICT教育の推進」に関しては、保護者ではない協議委員には馴染みが薄いので、どの様に活用されているかを知りたいです。

子供たちが将来必要になるスキルを身に付けられるようICT教育を実施する流れになりました。ICT教育とは情報活用能力を養うことで、2019年12月文部科学省「GIGAスクール構想」において、“一人一台端末は令和の学びの「スタンダード」多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、子供たち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力を一層確実に育成出来る教育ICT環境の実現へ”とのことです。

足立区では令和元年度から令和5年度の5年間で約73億円の区費を投入し、全児童・生徒に配布完了しています。令和5年度は、アクセスポイントを1教室あたり1台から2台に増設、ローカルブレイクアウトを80校実施したとの事です。ここまででも、わからない協議委員は少なくないのではないのでしょうか。授業の改善、効率を図る為に利用をされていると思いますが、実際に各科目でどのような利用をするのか、機器としての活用方法、家庭での通信環境は千差万別だと思えますので、問題点や改善点等についてご教示いただけると良いと思えます。

## (2) 保護者や地域へのメッセージ

評価書にも明記されているように、「学校、家庭、地域にはそれぞれの役目があります。学校は、子供たちに学力や体力をはじめ、人格形成の基礎を身に付けさせていく役目があります。また、子供たちの基本的な生活習慣が身に付くようにして、学習効果を高めていくことも役目です。この基本的な生活・学習の習慣を身に付けることは学校だけでも家庭だけでもできません。互いが同等な関係で、それぞれの役割を果たす事が重要です。基本的な生活・学習の習慣の土台は家庭であり、家庭の協力が不可欠です。「躰」「健康管理」「家庭学習」「社会の規範(きまり)を守る」などは家庭の役目です。子供たちに「忍耐強さ」「根気強さ」「自制心(心の強さ)」「意欲」「誠実さ」「好奇心(興味・やる気)」「社会性」「協調性(思いやり・協力)」「人とかかわる力」などの力を育てていくことです。家庭で基盤をつくり、学校で知識や知恵を身につけ、地域で実践していくような連携がとれることを願っています。学校・家庭・地域が互いに同じ方向を向いて、子供に働きかけることが大切です。「子供たちのために」ともに力を合わせてまいりましょう。この内容を受け止め今後の協議会活動に努めます。

学校での様々な取組を家庭(保護者)が理解・協力しなければ、効果が上がらない事が多分にあると思えます。学校からは色々な取組を周知していますが、理解不足や認識違いの保護者がいるのも事実です。

現在、学校からC4th Home&Schoolにて連絡事項・学校の様子など様々な情報が送信されています。毎月送信されている【学校だより】では、第4号『7月を迎えるにあたって』、第6号『私の願いは「子供の笑顔」です』、第8号『多様な人との関わりを通じた人権感覚の醸成』等など、保護者へ読んでほしい内容が多く発信されています。

小学校は児童の教育のための施設であるだけでなく、各地域のコミュニティの核としての性格を有することが多く、防災・保育・地域の交流の場等、様々な機能を併せもっています。また、学校教育は地域の未来の担い手である子供たちを育む営みでもあり、まちづくりの在り方と密接不可分であるという性格ももっています。学校がもつ多様な機能にも留意し、保護者や地域住民の十分な理解と協力を得て「開かれた学校づくり協議会」で丁寧な議論を行いたいと思えます。

### 3. その他

本年度も、「運動会」「音楽会」等の学校行事や各取組を実施し目標を達成させるのは大変なご苦勞があったと思います。教職員の皆様には感謝申し上げます。

運動会・音楽会どちらも、教職員の取り組む姿勢、児童の一生懸命な姿や素敵な笑顔に感動しました。ありがとうございます。

教職員は業務が多岐にわたります。突発的な事象の対応もあり、とてもストレスが溜まると思われます。「学校における働き方改革」の取組例にもあります「学校行事の精選など」「外部の力の活用」等で、少しでも負担が軽減出来るように、協議会はもちろん、保護者・地域の方々が協力する事がマストです。先生方とより良い関係を築く為にも、先生方との意見交換を行いたいと思います。

区画整理等の開発で加平小学校周辺の様相が変わりました。加平小学校通学区域人口 9,499 名(前年より 1,522 名増)、六町駅 1 日平均乗降数(2024 年 12 月)17,800 人(前年より 1,000 人増)と年々増えている状況です。また、六町駅前区有地活用事業(駅ビル)、六町 2 号公園(仮称)、六町旧家の利活用(文化財)の取組・整備が遅れていますが、今後すすめる予定とのことです。児童の安全対応に苦慮しないよう、協議会委員も現場の状況把握に努めたいと思います。

また、学区域内の各町会では区画整理により加入率が減少され活動自体が縮小されていると思われます。町会の活動内容として、防犯、防火・防災、交通安全活動、青少年の健全育成、まつり等の行事開催、スポーツ活動等があります。各町会との情報交換や連携により、加入促進を図りより住みやすい街を築く事が必要だと考えます。

今回評価書作成にあたり協議会委員からの学校関係者評価資料の提出が少なかった事に危惧しています。足立区教育委員会の資料では、「開かれた学校づくり」は、学校・家庭・地域の皆様が力を合わせて地域性を活かした特色ある学校活動を進め、新しい時代を切り拓く児童・生徒の「たくましく生き抜く力」や「豊かな心」を育てていく取り組みです。開かれた学校づくり協議会の目標と機能を、3つの目標(①地域に根ざした特色ある学校づくり②学校支援活動の充実③家庭と地域の教育力の向上)と、5つの機能(①協議機能②評価機能③支援機能④調整機能⑤実施機能)としています。協議会委員の皆様には、協議会の取り組みを再確認して頂き、加平小学校の教育目標を達成するために、協議会活動に努めなければならないと思います。